

写真出典：防衛省(焼失した輪島朝市周辺でのドローンによる搜索活動の様子)

昨年の元旦に発生した能登半島地震から1年が経ちました。古い木造住宅が密集した輪島市では、地震により大規模火災が発生し、約240棟の建物が焼けて壊れました。

上平間地区も火災延焼のリスクが高い地域であることはご存じですか？各家庭で備えを見直し、地域を守りましょう。



令和7年1月発行

上平間第一町内会

防災まちづくりNEWS vol. 5

特集 | 備えよう。地震災害

町内会では、防災まちづくりワーク

ショップ(以下、WS)で、地域で備える地震災害について話し合いました。

本ニュースでは、家庭で備える地震災害の対策をまとめました。[町内会のホームページ\(右のQRコードから\)](#)にも防災まちづくりを掲載しています。ぜひご覧ください。



NEWS CONTENTS

01 9/21WSの報告

WSでは、上平間地区で大地震の時に火災が発生したら、どのように延焼するのかシミュレーションを見ながら、地域の課題を考えました。



02 上平間は火災延焼のリスクが高い

上平間地区は、大地震で火災が発生すると、地域全体に燃え広がるリスクがあります。火災に対する備えは十分ですか？



03 部屋の中は安全ですか？

近年の地震による負傷者の30～50%は、家具類の転倒・落下・移動が原因です。部屋の安全性を高める方法をご紹介します。



04 地震に強く！木造家屋の耐震化

耐震基準は、大震災の被害を受けて、順次改定が進んでいます。昭和56年5月31日以前に建てられた建築物は特に地震に弱いと言われています。



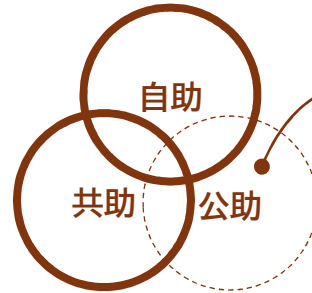
大地震が発生すると上平間地区は「延焼」「倒壊」「液状化」の3つのリスクが顕在化します。WSでは、「延焼」について、上平間地区の延焼シミュレーションを見ながら、地震火災が発生した時の地域リスクと対策(案)について話し合いました。

【大地震が発生した時の上平間地区の様子】

①大地震が発生すると上平間地区は避難が困難になる



②命を守るためには「2つの助」が特に重要になる



消防や警察、行政も被災するため、迅速な救援や支援が働かない

【WS参加者のコメント(抜粋)】



「広域避難場所」が上平間地区から遠いことが怖い。大火事が発生すると上平間からの避難ができないかも！



防災用品を準備して、家具の転倒防止をしたいです。家具が倒れても安全な場所で凌ごうと思います。



どこで火災が発生しているのかが、わからなくなる。地域での情報共有の方法がない！ことが問題です。



マンションは風水害の心配は少ないが、大地震時はわからない。マンション内でも大地震時の話し合いが必要だと思った。

【WSの話し合いポイント:引き続き話し合っていく地域の対策案】

上平間の共助メニューその1案

情報連絡手段と連絡網の確保

火災が起きた時の連絡網が重要。正確な情報の入手法と地域に伝える手段を考えたい。

上平間の共助メニューその2案

近い避難先を確保

遠すぎる広域避難場所の代わりに、線路の向こうの住宅展示場を一時避難場所として使えないだろうか？

上平間の共助メニューその3案

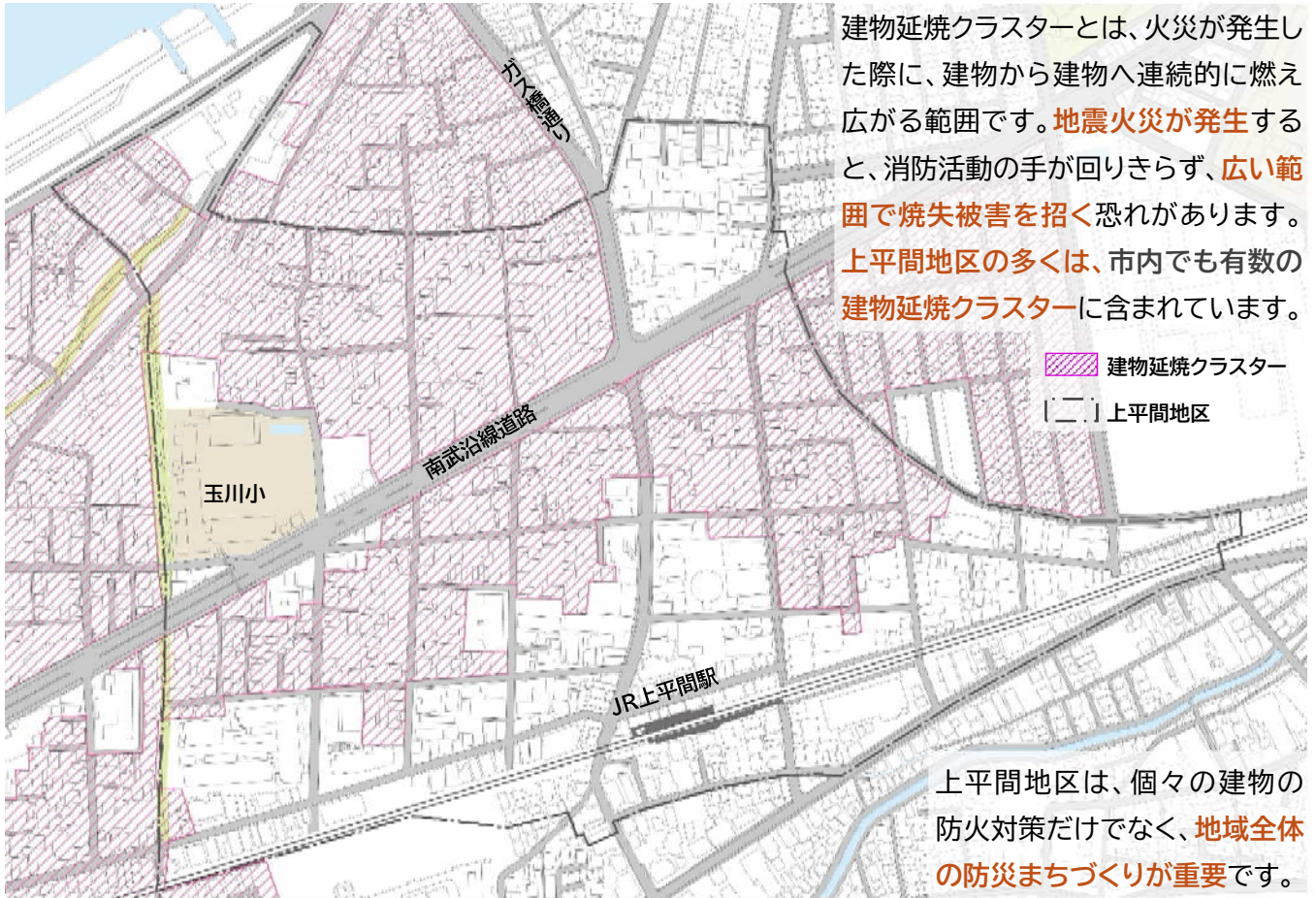
地域全体で初期消火に努める

初期消火は、「消火器」「消火ホースキット」、出火予防には「感震ブレーカーの設置」等がある。地域全体で火災延焼を抑制したい。



大災害時は「(消防や警察等の)公助」が機能しません。命を守り、被害を最小限に留めるには「(地域の)共助」と「自助(の備え)」が特に重要です。防災まちづくりWSでは、引き続き、「地域でできること」と「地域で何をするのか？」の具体策を話し合っていきます。

02 上平間地区は火災延焼のリスクが高い！

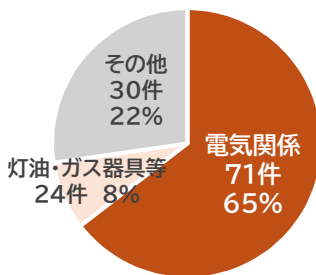


建物延焼クラスターとは、火災が発生した際に、建物から建物へ連続的に燃え広がる範囲です。**地震火災が発生すると、消防活動の手が回りきらず、広い範囲で焼失被害を招く恐れがあります。上平間地区の多くは、市内でも有数の建物延焼クラスターに含まれています。**

■ 建物延焼クラスター
 [] 上平間地区

上平間地区は、個々の建物の防火対策だけでなく、**地域全体の防災まちづくりが重要**です。

大地震時の火災原因は「電気関係」が最多です



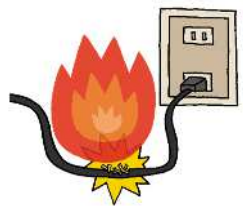
東日本大震災出火原因
 日本火災学会調査(2014)

地震火災の過半数は電気が原因という事実をご存じですか？主に電気の復旧と同時に発生する「通電火災」が火災の主な原因です。倒れた電気製品や損傷した配線から出火します。

地震の揺れを感知して自動的に電気を遮断する感震ブレーカー(右図)は地震時の電気火災を防ぐことができます。

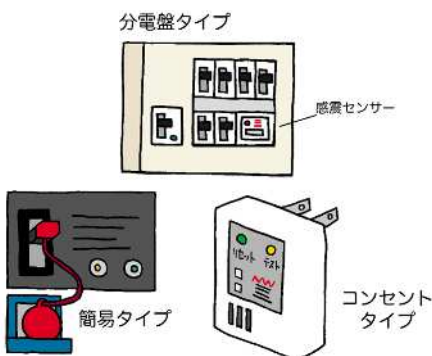


【電気火災の事例1】
 地震で落下したものに着火してから火災



【電気火災の事例2】
 コードが破損してショートから通電火災

各家庭に感震ブレーカーを設置して地震火災から「家」と「地域」を守ろう！



「感震ブレーカー」は、地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止めます。感震ブレーカーは、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に、電気火災を防止する有効な手段です。



03 部屋の中は安全ですか？

地震時は家具等の転倒・落下・移動で負傷する恐れがあります。震度4では吊り下げ照明などが大きく揺れ、震度5弱では棚にあるものが落ち、固定されていない家具が移動・転倒することがあるとされています。



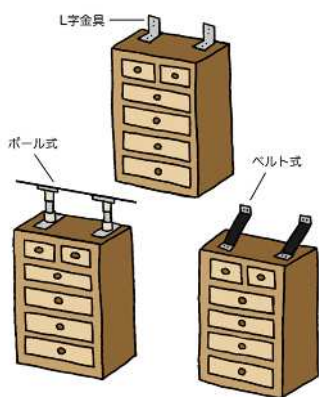
安全な部屋づくりのポイント

万が一家具や家電が倒れても避難経路を確保できることを意識して、物の配置を考えましょう。また、ストーブなどの火元に物が転倒・落下・移動すると、二次被害(火災)を引き起こす危険があります。部屋の安全を見直し、地震時の怪我や二次被害のリスクを減らしましょう。

家具や家電の転倒を防ぐ

- 家具や家電を転倒防止器具で固定する

家具の固定は金具で家具を壁面などにネジ止め固定するのが基本です。突っ張り棒は、ネジ止めできないときのやむを得ない方法(非推奨)です。



窓ガラスの飛散を防ぐ

- 飛散防止フィルムを張る
- ブラインドや厚手のカーテンを設置する

棚などからの落下を防ぐ

- 高い位置に重いものやあたると危険なものを置かない
- 開き扉にストッパーをつける

家具などの移動を防ぐ

- 家具などの下に滑り止めシートを挟む
- キャスターストッパーをつける

川崎市
では

転倒防止器具の無料設置サービス

高齢者または障害者のみの世帯で、自ら家具転倒防災金具を取り付けることが困難な場合は、居住家屋の家具3台までの金具を無料で取り付ける支援制度があります。
問い合わせ先:健康福祉局地域包括ケア推進室 (TEL:044-200-2926)

04 地震に強く！木造家屋の耐震化

昭和56(1981)年5月31日以前に建てられた建築物は、古い耐震基準(旧耐震基準)で建てられていることから特に地震に弱いとされています。川崎市では、旧耐震基準で建てられた木造住宅を対象に下記の支援を行っています。該当する住宅にお住まいの方は、まずは耐震診断を受け、自宅の耐震性について見直してみましょう。

川崎市
では

- 無料で耐震診断士を派遣
 - 耐震改修工事の費用の一部を助成
- ※旧耐震基準で建てられた木造住宅が対象です
問い合わせ先:まちづくり局防災まちづくり推進課
(TEL:044-200-3017)

